

伊吹山・金勝山登山記

惠谷 浩

17年前、60歳定年で会社を退職し、まず始めたことは就職以来ほとんど止めてしまっていた読書であった。最初に読んだのが滝沢馬琴の南総里見八犬伝を上回り、世界に類のない大長編小説だと作者・中里介山が言った大菩薩峠である。この大菩薩峠は大正2年（1913年）から約30年にわたって新聞に連載され、作者の死によって未完となったもので、幕末から明治始めを舞台とし、虚無にとりつかれた机竜之介の甲州大菩薩峠から始まる旅の遍歴と様々な人々の生き様が書かれており、作者は単なる小説ではなくて大乘小説と呼び、仏教思想に基づく人間の業が描かれている。小説の始めの大菩薩峠や机竜之介と甲源一刀流の宇津木文之丞の御岳神社奉納試合と文之丞の弟・宇津木兵馬までくらは、日活・東映・大映・東宝の各社が映画化し、また芝居にもなり、広く知られているだろう。しかし、その後のことは小説を読んだ人でないほとんど知られていないと思う。

小説の最終章近くになり伊吹山が登場する。甲府の大尽の娘で幼少のとき顔に大火傷を負い歪んだ性格となったお銀様が伊吹山に住み、薬草で火傷跡の治療をし、薬効は表れないが次第に心のみ胆吹王国を築こうとする。最終章では机竜之介が小舟で一人琵琶湖に漕ぎ出し、霧の中に見えなくなったと記憶している。

さらに13年前。高校の同級生のO君からトレイルラン・夢高原かっつ伊吹に毎年参加していると聞いた。このことも加わり、新幹線の関ヶ原と米原の間の車窓から日本百名山の一つである雄大な伊吹山（いぶきやま）を眺めながら、一度は登ってみたいものと思い続けてきた。齢とともに衰える体力、今年を逃すと実現できなくなるかとも思い、新型コロナウイルス禍、Go To トラベルも利用して、台風14号がさり好天の予報の下、伊吹山登山を決行した。

2020年10月13日

(火) 7:05 自宅発。スーパーで弁当を購入し、7:26 北習志野駅発、新京成線、JR 総武線 8:40 品川駅着。新幹線ひかり



635、10:47 米原駅着。9:19 車窓からの雲に覆われた富士山 9:59 ひかりだからかガラ空きの新幹線 10:43 車窓からの伊吹山

JR 琵琶湖線 11:25 彦根駅着。姫路城、松本城、犬山城、松江城とともに国宝に指定されている彦根城を観光した。徳川四天王の一人・井伊直政が1600年関ヶ原の戦いの後、近江国北東部に18万石で封ぜられ、次の井伊直継の代に琵琶湖に面した彦根城が築城された。その後、譜代大名の中では最高の35万石となり、幕末には桜田門外の変で有名な井伊直弼が幕府大老となっている。

47本（現在34本が残っている）の松（いろは松）が植えられている中濠の沿道を通り、元禄時代に建てられ常に十数頭の藩主用の馬がいたという馬屋の横を通り、表門橋へ。表門から表門山道の石段を上り、廊下橋（非常時には落とし橋となる）へ。この橋を中央として左右対称に天秤櫓が建てられている。日本の城郭でこの形式のものは彦根城だけとのこと。幕末12代藩主直亮のときにより美しい音色にしようと改鑄の際、大量の小判が投入されたという時報鐘を見て、本丸への最後の関門である太鼓門櫓へ。本丸天守は北西に附櫓（つけやぐら）、長い多間櫓が連なり、天守一層目の軒に八つのへの字形の切妻破風、二層目は南北

を切妻破風、東西を入母屋破風、南北に唐破風が設けられ、大変美しい姿となっている。本丸の西側一帯が西の丸で、その端に西の丸三重櫓が築かれている。天守に入り、約 8kg のリュックサックを背にして三層目まで階段を上り、晴天下の彦根市街地や琵琶湖などを望んだ。次に西の丸から下り、内濠にかかる黒門橋を渡り、玄宮園へ。琵琶湖や中国の瀟湘（しょうしょう）八景にちなんで選ばれた近江八景を模して造られたという。鳳翔台（ほうしょうだい）や楽々園を前景とした天守もまた格別であった。昼食。



11:08 駅前から城を望む



11:28 いろは松



11:29 佐和口多聞櫓(左)



11:35 表門橋



11:48 天秤櫓と廊下橋(手前)



11:52 時報鐘



11:53 太鼓門櫓



11:55 彦根城天守



12:04 天守の三層目から琵琶湖を望む



12:05 天守三層目からの玄宮園、伊吹山(遠方)



12:17 西の丸三重櫓



12:20 西の丸から見上げた天守



12:35 玄宮園の鳳翔台と天守



12:38 玄宮園の鳳翔台(左)



12:58 水戸市から贈られた二季咲桜



13:22 彦根駅前の井伊直政公之像

13:48 彦根駅発、14:13 近江長岡駅着。14:20 発の湖国バスで 14:36 伊吹山登山口・標高 210m 着。フリー百科事典ウィキペディアによると、伊吹山は古くから寺院が建立されたという。鎌倉時代には修験者による山岳宗教が発達し、一時は数百の堂房が山中に建ち隆盛し、江戸時代まで山岳修行の山とされていた。伊吹山の神は大きな白猪とされ、ヤマトタケル（日本武尊）がこの白猪と戦って敗れ、亡くなったという伝説がある。また、伊吹山は薬草の宝庫として古くから利用されており、現在、山麓には約 280 種の薬草が生えている。伊吹山は約 3 億年前に噴火した海底火山であったとされ、中腹より上部は古生代二畳紀に形成された石灰岩が広く分布している。現在では良質の石灰岩が採掘され、南西の稜線は山容が変貌するまでに大きく削り採られてしまっている。

登山届を出し、入山協力金 300 円を入れた後、三之宮神社に参拝・安全祈願した。14:55 いやいよ約 8kg のリュックを背負い、2 本のストックを持ち、伊吹山登山開始。杉の植林地の中を暑い日陰の風に心地よく上り、低灌木帯に入り、15:30 に 1 合目 415m。伊吹高原荘で休息。直ぐ上に伊吹山パラグライダースクールの事務所。旧伊吹山スキー場のゲレンデがパラグライダーの発着場として利用されている。



14:41 三之宮神社



14:58 樹林帯登山道



15:44 振り返った 1 合目

16:14 に 2 合目・ロッジ山に到着。ロッジ山は本館・食堂・風呂場の 2 階に 2 室とコテージ 2 棟がある小さな宿である。西の広場から夕陽が沈む琵琶湖の美しい光景が望まれた。まず、入浴して汗を流し、18:30 から夕食。宿泊客は筆者に老夫婦と若者の 3 名のみ。夕食は 3 種の肉・レタス・クレソンのしゃぶしゃぶ、琵琶湖で獲れたワカサギのから揚げ、硬やっこ、混ぜご飯で美味しい。宿泊費は 2 食付 8580 円。筆者はそれに瓶ビール 605 円とグラスワイン 440 円。夕食をしながら女将さんと話した。小説を読み前々から一

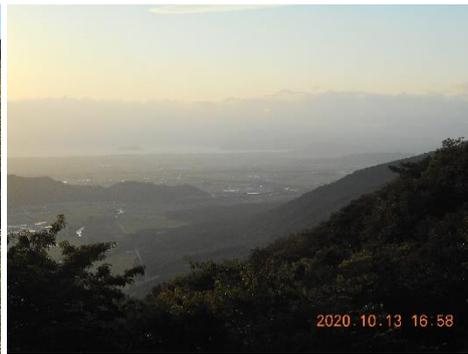
度伊吹山に登ってみたいと思
い、新型コロナウイルス禍だ
が来た。また、福山の高校同級
生が毎年かっとび伊吹に参加
・完走していると言うと、何
歳ですか。77歳と答えると、
ひょっとするとその同級生は
〇さんでは。若いですねーと
びっくり。筆者もびっくりし、
ええー、なぜ〇君と分かった
のかとの問いに。今年はコロ
ナ禍で中止となったが、毎年、
かっとび伊吹の後、下山して
ここに宿泊している。この
横の広場がかっとび伊吹のエ
イドステーションになっている
とのこと。話が随分と弾んだ。



伊吹山地図/昭文社発行、2020年版、山と高原地図45、御在所・霊前・伊吹



15:57 ロッジ山



16:58 ロッジ山から夕陽に映える琵琶湖を望む



17:42 琵琶湖方面に沈む夕陽



18:52 ロッジ山の夕食膳



20:03 食堂での筆者



20:04 ロッジ山の女将さん

10月14日(火) 6:00 朝食。飲料水、予備食などを入れたサブザックを背にし、リュックサックはロッ
ジ山に預けて、6:55 出発。低灌木がまばらな中を上り、日差しを遮るものがないので暑い。7:41 柵で囲ま
れた植物の観察路出入口。多くの薬草の花が咲いていた。7:50 に3合目 720m。スキー場跡地となり、木

立がなくて広々とし道は歩きやすい。8:22 に 5 合目 880m・山頂まで 2.4km。ここら辺りから次第に急こう配となり、ジグザグの道となった。少し冷たい風が吹くようになり、気持ちよい。8:50 避難小屋。9:03 に 6 合目 1990m、急こう配の道が続く。9:50 トレイルランの人に声をかけると、トレーニング不足で走れないと言って、猛烈な速さで歩き追い越して行った。9:59 に 8 合目 1220m、修験の霊場で伊吹山寺を開いた三修や江戸時代前期の円空が修行した行導岩(平等岩)を望んだ。ジグザグ道がごく急こう配になる。服装から分かるトレイルランの人が次々と追い越し、その数 5~6 名位で、追い越したと思っていたらもう山頂から下ってくる者までいる。何とも速い。鹿よけ柵を開けて少し上り、11:05 遂に日本百名山の一つ伊吹山 1377m 山頂に到達。山頂は雲一つない快晴の下、360 度の眺望。山小屋兼食堂・土産物店が 3 軒ある。また、新型コロナウイルスどこ吹く風とかなり多くの登山者で賑わっていた。まず 360 度の眺望を写真に撮った後、食堂に入り温かいソバ 800 円で昼食。さらに、登頂記念写真を撮ってもらうなどし、伊吹山ドライブウェイを通り山頂近くまで来るバスの駐車場が見える所まで下ったが、見るべきものはなさそう。



7:25 かつては非常に薬草が多かった徳蔵山



7:33 伊吹山山頂を望む



7:41 網で囲まれた植物の観察路出入口



7:43 オオバギボウシ だろう



7:43 イチリンソウ(一輪草)



7:44 イブキジャコウソウ だろうか



7:47 イブキトリカブト(伊吹鳥兜)



7:50 小さな蝶がいた



8:17 ごろ石・岩の登山道



8:49 避難小屋



8:54 晴天下の琵琶湖と比叡山を望む



9:28 7合目、ジグザグ登山道が続く



9:36 振返ってジグザグ道と琵琶湖(右遠方)



9:37 振返りジグザグ道と霊仙山(右遠方)を望む



9:39 石灰岩の露岩登山道



9:59 8合目 1220m・山頂まで0.9km



10:01 行導岩/修験の霊場



10:07 8合目から霊仙山 1084m(右)を望む



10:41 山頂(左)へ最後の急登(右側)



10:46 9合目付近の巨岩と琵琶湖



10:47 石灰岩が路頭する登山道



10:54 猪よけに網で囲まれた山頂への出入口



10:56 花が枯れたコイブキアザミ



10:59 リュウノウギク (竜脳菊)



11:00 ミヤマリンドウ(深山竜胆) だろう



11:04 伊吹山 1377m 山頂の伊吹山寺本堂(中央)と 3 山小屋兼食堂・土産物店



南方向



西方向

山頂からの 360 度の展望(1/3)



北方向

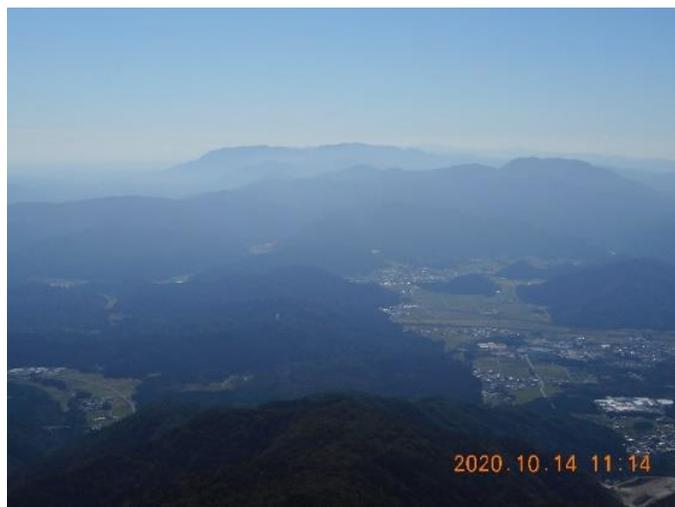


東方向

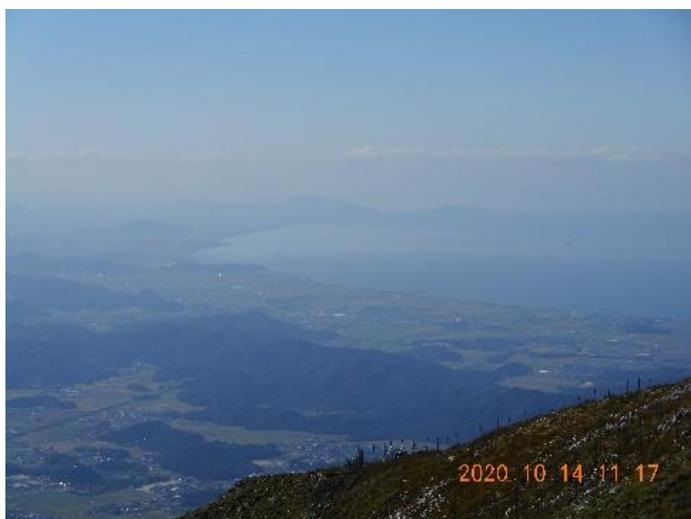
山頂からの 360 度の展望(2/3)



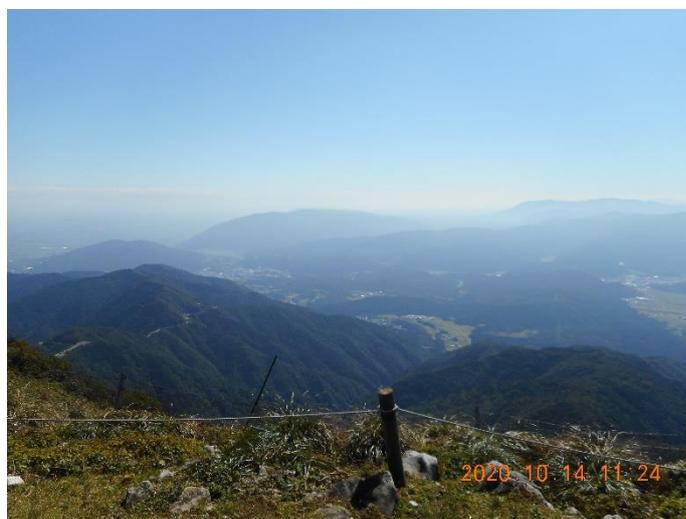
山頂からの 360 度の展望 (3/3)



11:14 南方向 20km の霊仙山(右)、43km の御在所岳 1212m(中央)をズーム



11:17 西方向 14km の琵琶湖をズーム



11:24 南南東の方向をズーム



11:28 山頂の南弥勒菩薩



11:59 山頂に建てられた日本武尊の石像



12:00 日本百名山伊吹山 1377m 登頂記念写真



12:00 サングラスをかけ[両手にストック]登山姿の筆者



12:09 バス駐車場を見下ろす



12:09 北東側のためだろわか紅葉が始まっている



12:10 初秋の紅葉・黄葉

約 1 時間山頂を堪能し、12:15 往路と同じ道を下山開始。途中、何度もトレイルランの人と出会った。また、多くの人達が追い越し下山していく。16:00 ロッジ山。リュックサックを受け取り、女将さんの O さんによろしく伝えてくれに、約した。17:15 夕暮の伊吹山登山口に下山。1 時間待ち、18:10 最終バスに乗り、18:26 近江長岡駅着。18:30 発の JR 東海道本線で 18:40 米原駅、JR 琵琶湖線に乗換え、19:20 草津駅着。歩いてホテル 21 草津に。素泊 6500 円のところを Go To トラベル適用で 4225 円。草津駅で購入した缶ビール 350ml と持参パンなどで夕食。



12:34 下るトレイルランナー



12:49 上るトレイルランナー(右端)



12:55 多くの人々が追越し下った



13:02 筆者を追越し下る人達